

議会事務事業評価に関する決議

加古川市議会では、平成29年度決算審査の一環として議会事務事業評価を実施し、その評価結果をもって平成31年度の予算への提言を行う。評価は、予算規模の増減に着目し、「拡充」「現行どおり」「縮小」「廃止」の4区分とした。

1. 提案推進事業

評価：現行どおり

本事業は、業務改善や政策提案を推進することで、日常的に業務改善に取り組む職員を育成することを目的としており、職員の業務に対する意欲を高めることから、その必要性は十分に認識している。

しかしながら、提案件数、採用件数が少ないこと、また、政策や改善が実現するまでに期間を要することなど、現行制度に対する課題は多い。

今後は、提案された内容が、迅速に実現できるような仕組みづくりを構築し、職員のモチベーションのさらなる向上に努められたい。

加えて主な目的を人材育成に置くのではなく、政策提言・政策立案に主眼を置いた新たな提案制度の創設を提案する。

2. 病児・病後児保育事業

看護師配置事業

評価：拡充

本事業は、保護者が子育てと就労の両立を図り、安心して就労するために、重要な子育て支援施策である。

しかしながら、病児・病後児保育事業の実施施設、また、看護師が配置されている保育所等は少ないうえ、市内にバランスよく配置されていない現状である。

看護師配置事業については、事業者の負担を軽減するため、実施施設への補助金の増額が必要である。また、病児保育事業については、新規開設を促すために、医師会への働きかけに積極的に努められたい。

3. 権現総合公園内キャンプ場運営事業

評価：拡充

本事業は、権現湖ハイウェイオアシス事業の公園施設の一つとして、現在、暫定的に整備されているキャンプ場の管理運営事業である。

年間6千人を超える利用者があり、休日の利用者は増加傾向にあるものの、平日の利用者が少ない等の課題がある。

利用者の増加のために、利便性を考慮した環境整備を行うとともに、インターネットによる予約環境の整備等を検討し、市内外へのPRを充実させてもらいたい。また、観光まちづくり戦略における市北部エリアの活性化のため、観光資源の一つとして活用し、さらなるにぎわいの創出につなげてもらいたい。

平成30年9月28日

加古川市議会